

学校評価アンケート(職員・保護者・児童)

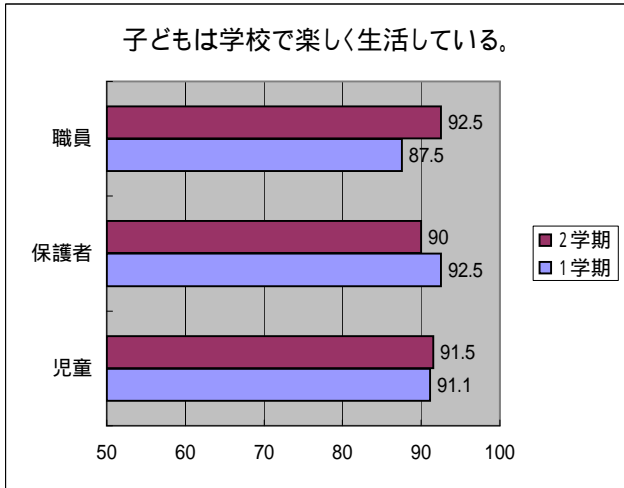
1・2学期の比較から

回収率(保護者) 一学期80%、二学期82%

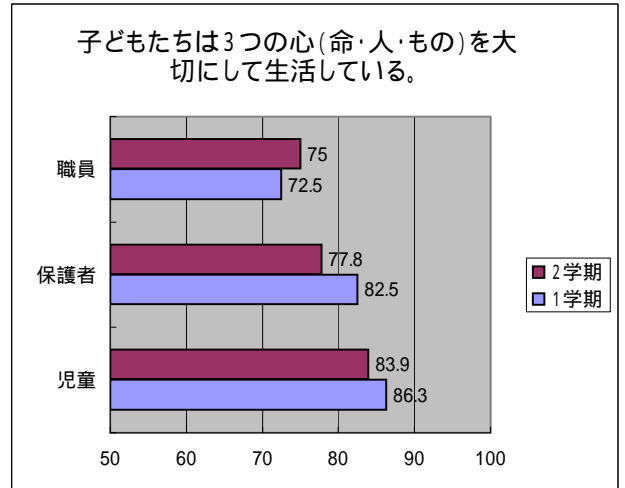
学校経営について

ポイントの算出方法

評価ABCDのAを4点、Bを3点、Cを2点、Dを1点として平均点を算出し、25倍して100点満点に換算しています。

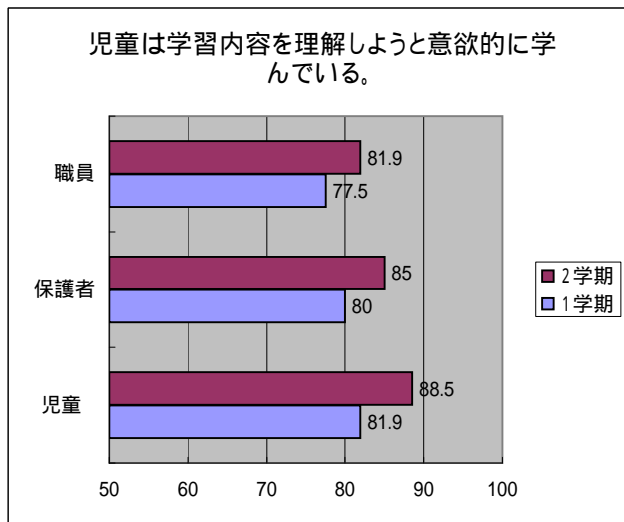


1学期、2学期ともに職員・保護者・児童すべてに高い評価である。今後も、毎日子どもが喜んで登校し、自己実現の充実感を得られる学校づくりに励んでいきたい。

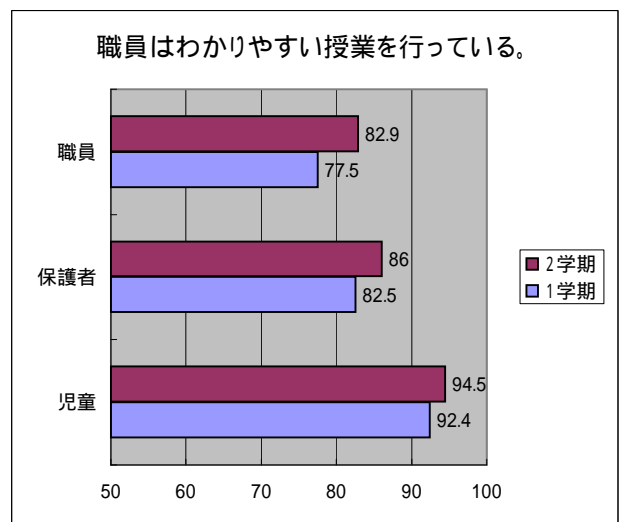


職員の評価がやや低くなっている。これは児童の実態をより厳しくとらえさらなる向上を期待することの表れと考える。今後も学校全体で「命・人・もの」を大切にする心を育てていきたい。

学習指導について

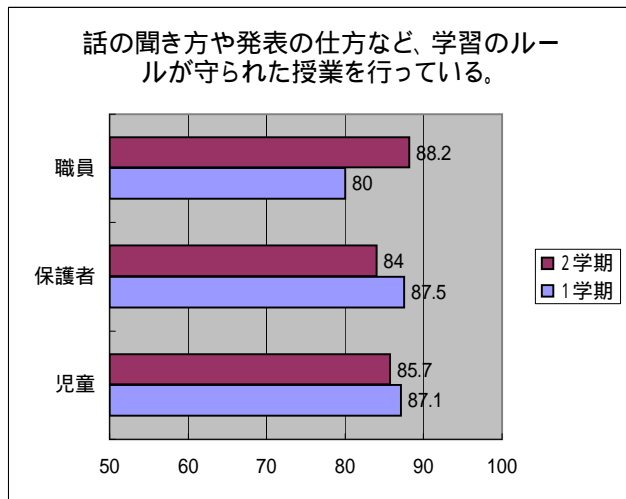


2学期はすべて大きく伸びている。今後も児童の興味・関心を高めるような教材研究をし、学習に意欲的に取り組んでいる児童の姿を認め、ほめ、励ましていきたい。



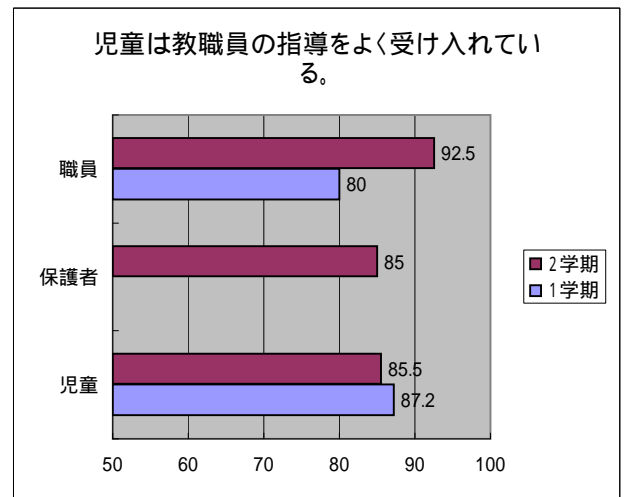
これも2学期は大きく伸びている。特に児童の評価が高い。今後も家庭と連携を図り、基礎学力の定着、全教科・全領のたかもり学習をさらに進め、楽しく分かりやすい授業を工夫していきたい。

学習指導について

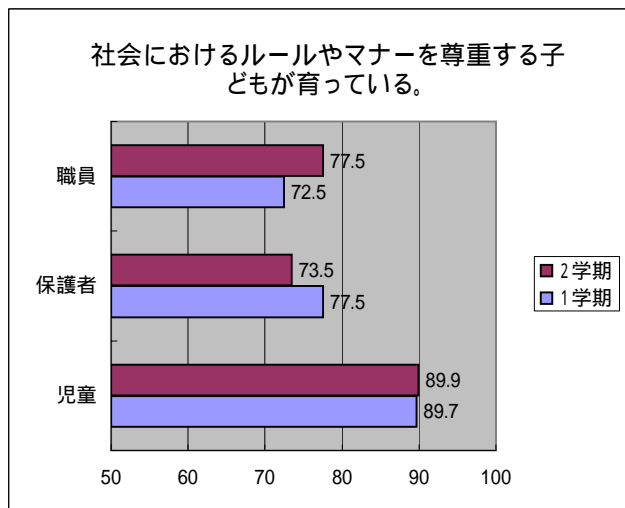


学習のルールについては、話す・聞くの決まりを教室掲示し、全校で徹底している。今後も1時間1時間の授業を大切に、話す・聞く態度を徹底していく。

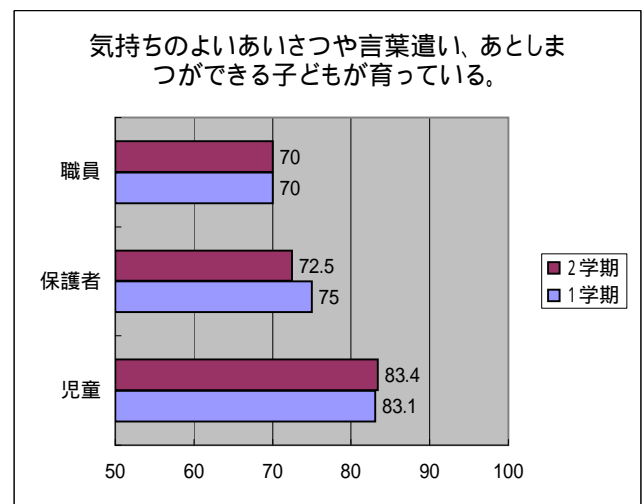
生徒指導について



2学期は特に職員の評価が大きく伸びた。さらに児童への声かけの工夫を行い、職員に対する児童の信頼感を高めていく。

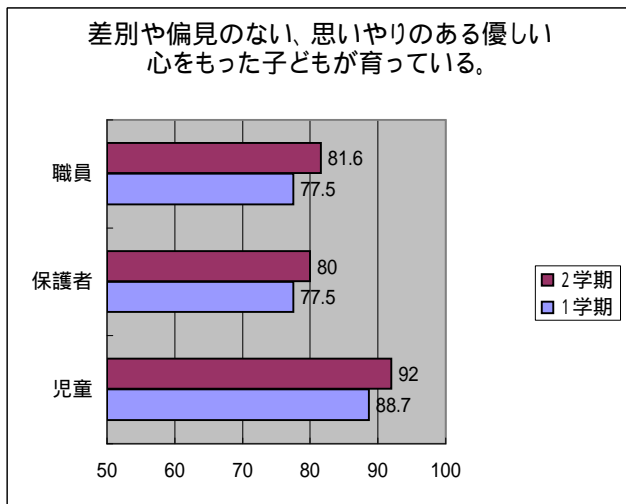


児童はできているとの自覚が大きいですが、保護者、職員の評価が低い。社会的ルールを身に付けるために道徳や学級活動の授業を工夫していくとともに、日常の指導を家庭と連携して引き続き行っていきたい。

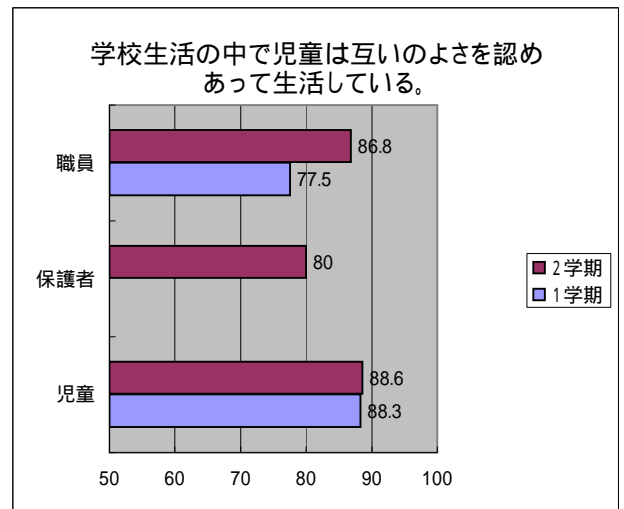


この項目も児童に比べて職員・保護者の評価が低い。児童が学校や家庭地域における様々な場面であいさつ等ができているか再度見つめさせ家庭と連携した取り組みを行っていく。

人権教育について

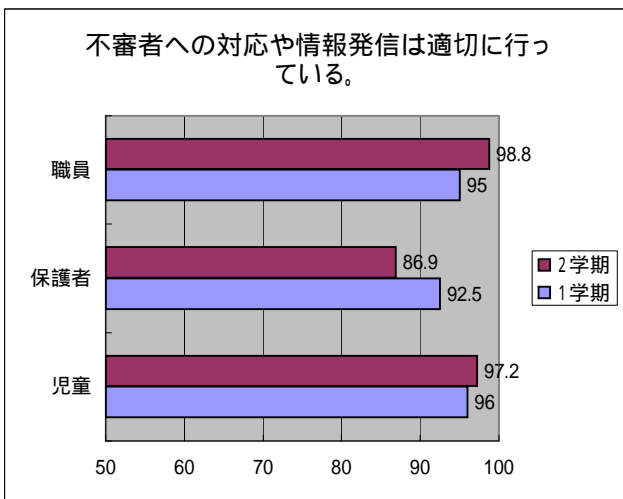


各学級や学校全体での人間関係づくりの中で思いやりの心が2学期は伸びてきた。児童のふり返りを大切に、友だちのことを考えた行動ができるような指導の工夫を行う。



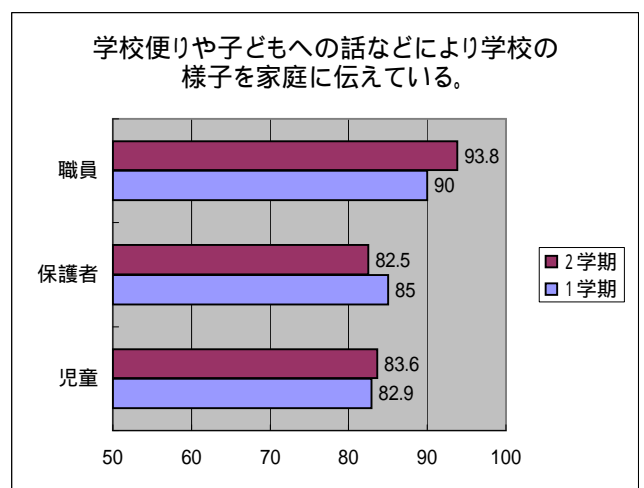
2学期は職員の評価が特に伸びた。各学級での話し合い活動の取組等により、互いの意見やよさを認め合う態度が育っている。職員も児童の日常的な行動を認め、ほめる機会を増やし、一人一人の出番をさらに充実させていく。

安全対策について



1・2学期ともにたいへん高い評価だった。防犯ブザーの調査や不審者情報の周知徹底を確実に行ってきているため、今後も継続していきたい。

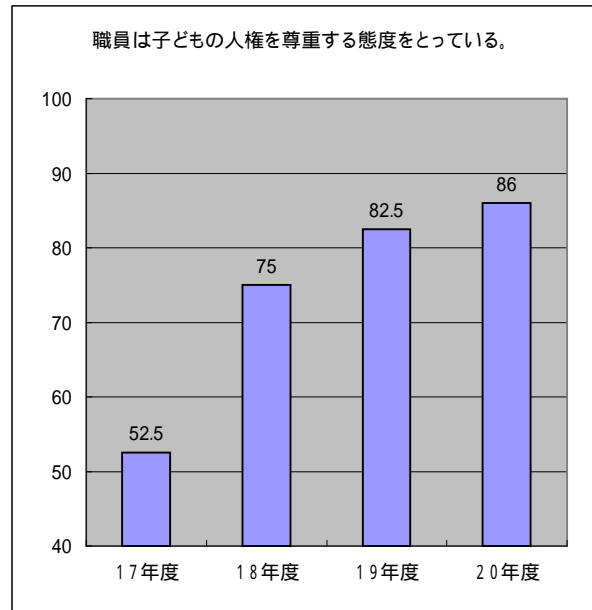
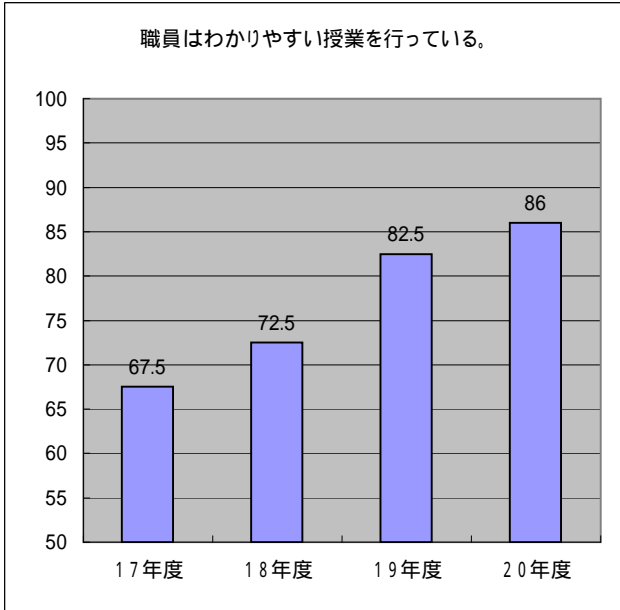
家庭との連携について



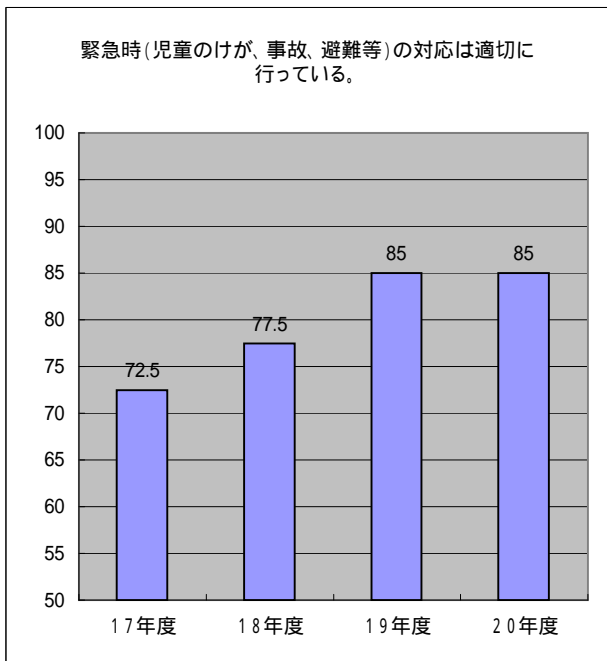
職員に比べ保護者・児童がやや低くなっている。学校での教育活動や子どもたちの様子などが保護者に具体的に伝わるように情報発信の内容や方法を工夫していくとともに、各家庭で学校のことを子どもと話すことを呼びかけていきたい。

保護者アンケートにおける変容(平成17 - 20年度)

学習指導について



危機管理について



施設設備管理について

